

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 10 日現在

機関番号：32607
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22520029
 研究課題名（和文） 医療経営倫理の基礎的研究

研究課題名（英文） Fundamental study of medical business ethics

研究代表者

小林 亜津子 (KOBAYASHI ATSUKO)
 北里大学・一般教育部・准教授
 研究者番号：00383555

研究成果の概要（和文）：

本研究では、医療機関の経済的な組織体としての側面に着目することによって、これまで医療の専門職としての意思決定にかかわる議論として見なされてきた生命倫理・医療倫理の問題を、経営倫理をモデルとした医療機関の組織倫理の問題として論じた。このことから、米国などで議論され始めている HSR (Hospital Social Responsibility、医療機関の社会的責任) という新しい概念の可能性を、具体的事例の収集をふまえながら見出した。

研究成果の概要（英文）：

In this research, the problem of the bioethics and the medical ethics regarded as an argument in connection with decision-making as medical professionals until now was discussed as a problem of the organization ethics of the medical institution which made managing ethics the model by paying one's attention to the side as an economical organism of a medical institution. From this, the possibility of the new concept of HSR (Hospital Social Responsibility, social responsibility of a medical institution) about which it is beginning to argue in the U.S. etc. was found out, being based on collection of an individual case.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：組織倫理、経営倫理、医療倫理

1. 研究開始当初の背景

これまでの生命倫理・医療倫理研究は、専門職たる医療者の倫理的判断と患者の自己決定にかかわる議論として捉えられる傾向が強く、患者と医療者が向き合う医療機関そ

のものの倫理的な考察は、あまり注目を集めてはこなかった。医療機関は患者と医療者が治療という場面で向き合うだけでなく、治療行為の対価としての患者による支払いが生じる経済行為が行なわれる場でもある。

企業に関する問題では、すでにコンプライアンスにとどまらず、ステイクホルダーとの関係に配慮したビジネス倫理や CSR（企業の社会的責任）の研究が日本でもかなり進められてきている。一方、医療機関では一部の病院で HSR が提唱されつつあるものの、それらの多くは医療事故対策にとどまり、医療機関の経済的な側面からの望ましいあり方（医療ビジネス倫理）を積極的に問うような試みは遅々として進まない状況にある。これは、営利企業と社会保障的な公共機関との中間に位置する医療機関という組織の独特の性格に由来するものと思われる。

近年、「利益相反」というカテゴリーの下に、治験における公平性、製薬会社からの贈答品、同僚の医療ミスの告発などの問題が、バーナード・ロウやヴィーチといった英米の生命倫理の代表的な論者によって、すでに論じられてきている。しかし、日本では、理論的・基盤的研究はおろか、生命倫理学者がビジネス倫理に関わることがまれであり、本研究はきわめて画期的なものになると思われる。

2. 研究の目的

本研究は、医療機関の経済的な組織体としての側面に着目し、これまで医療者の専門職としての意思決定にかかわる議論として捉えられる傾向にあった生命倫理・医療倫理の問題を、経営倫理をモデルとした医療機関の組織倫理の問題として捉え直すことにより、米国などで議論され始めている HSR（Hospital Social Responsibility、医療機関の社会的責任）という新しい概念の可能性を、具体的事例の収集をふまえながら検討することを目標としている。

これによって、ビジネスとしての病院経営のあり方と、臨床に根ざした医療の実存的視点とを融合し、医療機関という独特の組織の望ましいあり方を問うことを目的とする。

本研究では、社会的存在であると同時に営利を目的とする企業を倫理的に考察するビジネス倫理でのこれまで培われてきた知見を、医療機関に応用することである。医療機関に所属する従業員である医師や看護師の労働条件や処遇の問題、医療サービスの消費者である患者への説明責任と顧客満足の問題、医療機関の撤退の地域社会に与える問題、経営者たる医療機関の理事や病院長のリーダーシップや報酬の問題は、そのままビジネス倫理の従業員、消費者、地域社会、経営者の問題と重ね合わせることができる。

具体的にはビジネス倫理で用いられているマルチステイクホルダーモデルをもとに、医療機関に存在するステイクホルダー（患者、医師、看護師、地域社会、運営団体、製薬会社等）との関係で発生してきた倫理問題をビ

ジネス倫理の視点から指摘し、公共的性格と経済的側面を併せ持った医療機関の望ましいあり方を問うことを狙っている。

3. 研究の方法

(1) ビジネスとしての病院経営の在り方と、臨床に根ざした医療の在り方とが衝突する事例を従業員（医師、看護師）、消費者（患者）、地域社会、経営者（理事、病院長）などのカテゴリーごとに分類し収集し、その典型的な問題点を抽出する。国内外の判例データベース（LEX/DB、Public Library of Law）や Lexis.com、さらに「ヒヤリ・ハット事例情報データベース」などを利用し、該当する事例の検索・収集を行なう。これにより医療機関の抱える組織倫理的ジレンマを析出し、命題集を作成する。

(2) 経営倫理実践研究センター（日本経営倫理学会の企業向け教育機関、東京電力、三菱地所、NTT などの日本の有力企業が会員）の専任講師でもある中谷が会員企業の協力を得て毎月面談を実施し、企業における倫理的課題への最新の対応マネジメントシステムの事例を収集する。

(3) 欧米の経営倫理（とくに組織倫理の研究）の最新動向を調査する。ヨーロッパでは、医療機関の組織倫理的ジレンマを収集しながら、経営倫理の手法を、「経営」される社会保障的な機関としての医療機関に適用することの有効性と問題点についての見極めを行なう。

4. 研究成果

(1) 経営倫理実践研究センター（日本経営倫理学会の企業向け教育機関）の会員企業の協力を得て毎月面談を実施し、企業におけるコンプライアンス推進システムや倫理マインド養成のための研修手法の事例を収集した。

この成果は、情報経営倫理学会等での口頭発表の他、共編著『社会を変える公益ビジネス—地方都市の再生を目指して』のなかでも発表した。

(2) 文献からの情報だけではなく、医療機器メーカーや医療機関のスタッフに対して、医療経営に関する事例収集という観点からインタビュー調査を行なった。病院の出入業者（ステイクホルダー）としての視点から、病院経営の実態、日常的に感じている倫理的ジレンマの事例を収集したり、医療機関における経営と倫理が相容れない事例を収集した。

また、医療機関の経営を圧迫する一因となっている医療過誤訴訟の研究者にもインタビューを行い、無過失医療保障制度の問題について検討を行なった。

これらの成果については、図書『はじめて学ぶ生命倫理』や『看護のための生命倫理』のなかで公表し、とくに看護倫理の中心的な概念とされている「ケアリング」と経営が対立してしまう倫理的ジレンマについて詳細に論じた。

また、その背景には、医療機関の施設要件によって、医療者が都市部へ集まり、地方病院の医療スタッフ不足が深刻化している状況などがあり、産科医、小児科医不足などと同様、地域社会というステイクホルダーに対する医療機関の社会的責任という問題として捉えることができることを指摘した。

(3) 収集した事例をふまえて、医療機関とそのステイクホルダー(患者、地域社会、医師、看護師、運営団体など)との間に発生している倫理的ジレンマを、「医療機関のビジネス倫理」の視点から列挙し、その典型的な問題点を析出した。

この成果については、図書『看護が直面する11のジレンマ』のなかで公表した。とくに、ビジネス倫理で議論されてきた「内部告発」の五条条件(ピーチャムによる)を医療機関に適用できるかどうかを詳細に論じ、看護倫理や医療倫理とビジネス倫理との接点を見出す試みを行った。

また法政大学における学会発表においても終末期医療と経営が問題となる場面について論じ、さらに「びわこ学園」での講演において、テキサス州で、一定の条件の下に、患者の人工呼吸器の取り外しを許容する州法が存在することや、人工呼吸器を着けている知的障がいを持った患者の臓器提供が検討されており、その背景には病院経営の問題が存在することなども議論した。

ビジネスとしての病院経営のあり方と、臨床に根ざした医療の実存的視点とを融合し、医療機関という独特の組織の望ましいあり方を問う研究は、日本では進んでおらず、生命倫理学者がビジネス倫理に携わること自体がまれであった。

図書や学会発表等で、いのちと経営、医療機関の組織倫理におけるジレンマを紹介してきたことによって、ビジネス倫理のモデルをヒントにした医療機関の組織倫理の意義を訴えることができた。これにより、組織倫理を中心とした医療倫理学への取り組みが本格的に起こることが予想される。

今後は、今回の理論的研究をもとに、医療機関における倫理推進のためのマネジメントシステムの具体的な提案をしていく予定であり、これによって、HSR(Hospital Social Responsibility、医療機関の社会的責任)の重要性を実務家に伝えることができると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 中谷常二、Why Kyosei is the paradigm of Japanese CSR? ” 単著、2012年12月、Proceedings of the 4th World Business Ethics Forum. (査読有)
- ② 小林亜津子、「緩和医療の『最後の砦』としての終末期鎮静」『法政哲学』第7号、1-12頁、法政哲学会、2011年6月(査読有)。

[学会発表] (計6件)

- ① 中谷常二、“Why Kyosei is the paradigm of Japanese CSR? ”、単独、2012年12月16日、The 4th World Business Ethics Forum, Hong Kong Baptist University, Hong Kong, China.
- ② 中谷常二、「ソーシャルメディアの企業倫理としての課題」、単独、2012年6月26日、日本情報経営学会第64回全国大会、於明治大学(東京都)、『情報経営 第64回全国大会予稿集春号』、165~168頁、日本情報経営学会。
- ③ 中谷常二、「ソーシャルメディアにおける倫理的課題」、単独、2011年11月27日、日本情報経営学会第63回全国大会、於広島工業大学(広島県)、『情報経営 第63回全国大会予稿集秋号』、96~99頁、日本情報経営学会。
- ④ 小林亜津子、「緩和ケアの『最後の砦』としての終末期鎮静」法政哲学会、第30回記念大会、2010年6月26日、於法政大学市ヶ谷キャンパス(東京都)
- ⑤ 中谷常二、「日本におけるビジネス倫理学研究の問題点」、単独 2010年6月13日、“第20回ドイツ応用倫理学研究会、ビジネス倫理学ワークショップ『倫理学と経営学の結節点としてのCSR概念』、於南山大学(愛知県)。
- ⑥ 中谷常二、「商品開発の倫理的諸問題」、単独、2010年6月12日、商品開発・管理学会14回全国大会、於中京大学(愛知県)、『商品開発・管理学会 第14回全国大会講演・論文集』、32~37頁、商品開発管理学会。

[図書] (計5件)

- ① 中谷常二編著、『ビジネス倫理学読本』、2012年4月、晃洋書房、(全頁)240+4+14頁、(著者)加藤尚武、Ian Maitland、Norman Bowie、他6名
- ② 渋川智明・高谷時彦・中谷常二編著、青木孝弘、奥山真裕、國井美保、佐藤繁義、

菅隆、鈴木俊治、高城豪、竹田真理子、中島智人、難波将也、村山智昭『社会を変える公益ビジネス—地方都市の再生を目指して』、共編著、2010年12月、ぎょうせい、(全頁)296+10頁、(共著者)(分担)第16章250~263頁「中心市街地活性化を考える」

- ③ 小林亜津子著、『はじめて学ぶ生命倫理—「いのち」は誰が決めるのか』ちくまプリマー新書、2011年10月(191頁)
- ④ 小林亜津子著、『看護のための生命倫理<改訂版>』ナカニシヤ出版、2010年10月(275頁)
- ⑤ 小林亜津子著、『看護が直面する11のモラル・ジレンマ』ナカニシヤ出版、2010年3月(278頁)

〔その他〕

ホームページ等

- ① 小林亜津子、「安楽死のパスポート」『デジタル版イミダス2012』集英社、2012年3月
- ② 小林亜津子、「安楽死のパスポート」『Kotoba』第7号、42-45頁、集英社、2012年
- ③ 小林亜津子、講演「いのちは誰が決めるのか」びわこ学園医療福祉センター野洲、第二回公開講座、2012年9月8日
<http://www.biwakogakuen.or.jp/index.php?id=213>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 亜津子 (KOBAYASHI ATSUKO)

北里大学・一般教育部・准教授

研究者番号：00383555

(2) 研究分担者

中谷 常二 (NAKAYA JOJI)

近畿大学・経営学部・准教授

研究者番号：70398501

(3) 連携研究者

なし